

令和五年度

龍谷大学付属

平安中学校入学試験問題

受験番号

国語

解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があったら解答用紙をおもて向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。（問題は持ち帰ることができません）

B2

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

インターネットの最大の利点は、スマートフォンやパソコンなどネットに接続できる機器があれば、誰でも、いつでも、どこからでも、どんな内容でも、個人で発信できることです。情報を受け取る側も、機器があれば、いつでも、どこでも、自分が見たい、知りたいと思った時に利用できます。

インターネットは、世界とつながっていますので、※フェイスブックや※ツイッターなどの※ソーシャルメディア（SNS）を通じて、世界中の人たちと※リアルタイムで意見交換や情報交換ができます。

A、知りたいことを検索すれば、即座に関連する項目が表示され、その中には、個人の※ブログやツイッターなどから、※マスメディアの情報、企業の情報、国や自治体の情報、海外からの情報まで、発信元の違う多種多様な関連情報が集められます。

インターネットには情報の無限の広がりがあります。それだけに、インターネットで伝えられる情報は①誰が責任を持つているのかを知っておく必要があると思います。

インターネット企業は、「※プラットフォーム」なのか、「メディア」なのかという議論があります。それによって責任の所在が違います。

「プラットフォーム」とは、インターネットを通じた人々の発信や受信を助けるために場所を提供しているだけで、投稿された内容を単に掲載し、※ユーザーに届けているだけだという考え方です。ですから、「プラットフォーム」であれば、ネット上に掲載された情報の責任は、原則として投稿者にあります。

B、あなたがインターネット上に、さまざまな※誹謗中傷

傷を書き込まれ、被害者になってしまった場合を考えてみましょう。直接の責任は、加害者である誹謗中傷を書き込んだ人物にあります。しかし、個人ではなかなか発信元にたどり着くことが難しく、加害者の特定までにどうしても手間と時間がかかってしまいます。

その間に、誤った情報がさらに拡散しないよう、急いでネットの書き込みの削除を求める必要があります。※インターネットプロバイダや※サイトの管理者、運営者等に「権利侵害情報の削除の申出」を行うことができます。

しかし、申し出によって、すぐに削除される場合はきわめて限られています。

「プロバイダ責任制限法」と呼ばれる法律では、被害者に対する責任について、プロバイダ等がその情報を流すことにより、「他人の権利が侵害されていることを知っていたとき」「他人の権利が侵害されていることを知ることができたと認めるに足る相当の理由があるとき」以外は、削除しなくてもプロバイダ等の責任は免れると定めているからです。「認めるに足りる相当の理由」を被害者が立証するのは簡単なことではありません。

なぜこうした法律になっているのかと言えば、プロバイダ等に安易に投稿内容の責任を負わせると、プロバイダ等が問題のありそうな投稿などを選び出して、掲載を拒否したり、削除したりする「事実上の※検閲」にもつながりかねず、憲法で認められている「※の自由」などの関係で問題が生じるためとされています。

このように、プロバイダやサイトの管理者、運営者等は、問題が起こってしまったあとの事後の対応でよく、責任はきわめて限られているため、結局、誹謗中傷が掲載されたまま、②泣

き寝入りせざるをえない場合が多いのが実情です。

一方で、「メディア」とは、インターネット企業がみずから、ニュースや※コンテンツの企画や取材、制作などに関わって掲載する場合など、情報の発信者として内容に責任を持っている場合です。

インターネットは、マスメディアと違い、情報やコンテンツの発信者と、その情報を掲載し流通させるプロバイダ等が分かれています。そのため、③責任はどこにあるのかがあいまいになりやすく、こうした「プラットフォーム」か「メディア」か、などという議論が発生します。

※第1章でも取り上げた2017年11月、アメリカ議会上下院で開かれた「2016年米大統領選挙でのSNSの影響」についての公聴会で、発言を求められたフェイスブック、ツイッター、※グーグルの法律顧問はいずれも、コンテンツを事前に編集するテレビなどと違い、SNSは「プラットフォーム」として場所を貸すだけだという見解を表明しました。

また別の公聴会では、議員に「グーグルはメディアか」と聞かれ、グーグルの幹部は「(グーグルは)※テクノロジー事業だ」と答えました。

アメリカでは、大統領選挙などで「メディア」として大きな影響力を持ち始めたSNSに対し、SNSも世論に責任を負うべきで、インターネット企業は「プラットフォーム」という責任のあいまいさを④うまく使ってビジネスに結び付けているのではないかという批判が高まっています。

誰が内容に責任を持っているのか。マスメディアは、インターネットとは違い、誰もがすぐに発信できるメディアではあり

ません。取材網が必要でし、編集・制作体制も必要です。新聞であればさらに印刷工場から一軒一軒に新聞を届ける宅配制度まで、大きな仕組みが必要です。

テレビで言えば、取材・制作はもとより、放送免許がなければテレビ電波を出すことができません。放送内容については放送法の規定があります。電波を使って全国に届けるための送信所も、さまざまな技術機材も不可欠で、新聞以上の大きな仕組みが必要です。

それだけに社会的な責任は重く、NHKのような公共的な特殊法人や、新聞社や民放のようなメディア企業が、組織として発信しています。情報やコンテンツの取材、制作から、読者や視聴者のみなさんに届ける※ルートまで、NHKやメディア企業が担っていますので、情報の内容についての責任の所在は明確です。

では、マスメディアが伝えるニュース・情報に誤りはないのでしょうか。そんなことはありません。取材確認が不十分な場合、誤報もあります。C、多くの人々が同時にその情報に接するため、間違っていた場合は、取材を受けた当事者や関係者をはじめ、視聴者や読者、さらに他のマスコミなどからの指摘が出されます。人から人に※ツイートされ拡散するSNSと違い、多くの人の目で同時にチェックされているわけです。

そのため、新聞や放送などのマスメディアは、ヒト、モノ、カネをかけて裏付けをとり、それぞれの社がその社の※クレジットをつけて、責任を持って情報を発信しています。事実関係のチェックはもとより、報道するかどうかや、報道する内容の判断は、新聞社やテレビ局が公共の利益を考慮してみずから行っています。

こうしたニュースや情報が、それぞれのマスメディアの名前

を明示して、インターネットにも提供されているわけです。

D、みなさんがインターネットで情報に接する時、情報の発信源によるこうした違いを頭に入れておいて、この情報は誰が発信しているかに気を配りながら、インターネット情報とマスメディアからの情報を見比べ、⑤それぞれの特性を生かして、情報を読み解いていってほしいと思います。

同時に、自分が発信者となつて書き込みを行う際は、他の人の誹謗中傷とならないよう倫理観をもつて行うことが大切です。（塚田祐之 『その情報、本当ですか？
— ネット時代のニュースの読み方 —』）

※（文中のことばの意味）

フェイスブック … インターネット上で情報交換するサービスの一つ。

ツイッター … インターネット上のサービスの一つ。

ソーシャルメディア（SNS） … インターネットを利用して相互のやりとりができるもの。

リアルタイム … 同時。

ブログ … インターネット上のサービスの一つ。

マスメディア … 新聞、テレビ、ラジオ、映画など情報を伝えるもの。

プラットフォーム … サービスの提供者と利用者をつなぐための場所を差し出す役目をもつもの。

ユーザー … 使用者。

誹謗中傷 … 根拠のない悪口を言いふらして、他人を傷つけること。

インターネットプロバイダ … インターネットを利用するための回線を接続する事業者。

サイト … インターネット上で情報やデータのある場所。検閲 … 国が出版物の内容を強制的に調べること。

コンテンツ … 情報の中身。

第1章 … ロシア政府が関わる組織が、インターネット上の広告にアメリカ大統領選挙の民意に影響を与えるような内容を記載していたことを、アメリカ議会が突き止めたという内容。

グーグル … インターネット上で情報を探し出す際に使うサービスの一つ。また、その会社。

テクノロジー … 科学技術。

ルート … 道筋。

ツイート … ツイッターで、短文を投稿すること。

クレジット … 映画やテレビ番組で、スタッフやスポンサーなどの名を示す字幕。

問1 A D にあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| ア | A | ただし | B | たとえば |
| | C | しかし | D | もちろん |
| イ | A | ですから | B | ただし |
| | C | つまり | D | ところが |
| ウ | A | また | B | たとえば |
| | C | しかし | D | ですから |
| エ | A | ところが | B | もちろん |
| | C | たとえば | D | ですから |

問2 線①「誰が責任を持っているのかを知って必ず「必要がある」とありますが、なぜですか。その理由を説明した次の文の I・II にあてはまることばを、文中から指定された字数でそれぞれぬき出しなさい。

インターネットは、I (二十四字) が可能で、II (十五字) が収集できるなど、情報の無限の広がりがあるから。

問3 * にあてはまることばを、漢字二字で答えなさい。

問4 線②「泣き寝入りせざるをえない」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誹謗中傷の削除をあきらめて、そのままにしておくしかないということ。
- イ 誹謗中傷されてしまう原因を、サイトの管理者に追求するべきだということ。
- ウ 誹謗中傷の内容を書きかえて、掲載することをあきらめるべきだということ。
- エ 誹謗中傷を書き込んだ人物を、特定できるまで待つしかないということ。

問5 線③「責任はどこにあるのかがあいまい」とありますが、これと対照的な表現を文中から八字でぬき出しなさい。

問6

——線④「うまく使って」とありますが、「うまい」のはどのような点ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア インターネット上にある情報の責任は、サイトの管理者や運営者に限られているため、マスメディアよりもプラットフォームの方が問題が起きにくい点。

イ SNSはさまざまな意見を掲載するメディアであるが、世間への影響をおよぼさないように、意図的に誤った情報を流して注目をそらしている点。

ウ 思いのままに投稿できるのはSNSの良いところであり、マスメディアのような公共の報道でなくても、時には強い影響力を持つて世論を動かしている点。

エ プラットフォームという、情報を発信するための場所に投稿者に提供する立場だとして、自身を内容や社会の反応に無関係であるとする点。

問7

——線⑤「それぞれの特性」とありますが、「インターネット」の特性ならA、「マスメディア」の特性ならB、どちらでもなければ×で答えなさい。

ア たくさんの情報の中から、自分の知りたい内容を瞬時に得ることができ、一度に大勢の人と共有することができる。

イ 情報の提供者が特定されていて無責任な投稿をすることはなく、誤報を出したり人を傷つけたりすることはない。

ウ 大規模な通信網と情報発信のための技術があるが、情報が届くまでに時間がかかるため、社会的な必要性は低い。

エ 個人で自由に発信することができるが、掲載される情報が誤報である場合でも簡単に削除できない。

オ 情報を発信するまでにいくつもの段階をふんで、組織として多くの人に関わって確認するため信頼度が高い。

問8 次の(1)・(2)について、後の問いに答えなさい。

(1) この文章を読み終えた後に、四人の生徒が話し合いました。本文の内容を**読み間違えている人物を一人選び、A～Dの記号で答えなさい。**

(生徒A)

日本国内の出来事だけでなく世界の国や地域で起こっている事に関しても、時間や場所を選ばずに情報を得られるという点で、インターネットは非常に便利だね。自然災害の多い日本では、被害の様子や安全確認の時にも有効だよ。

(生徒B)

そうだね。他にもさまざまな人の意見を聞いたり、反対に自分の考えを書きこんだりできるよ。たとえ、誤った情報が流れて問題が起こったとしても、責任は全て運営者がとってくれるから安心して使うことができるね。

(生徒C)

最近のテレビ番組では、報道内容や出演者の発言に関する視聴者からの書きこみが画面上に映し出されているね。そのようなものも、番組を制作する人たちが責任を持って選んでいるのだろうと、この文章を読んで思ったよ。

(生徒D)

インターネットは便利な点が多いね。ただし、デジタルタトゥーといって、一度書きこまれた内容を完全に削除することは難しくインターネット上に残ってしまうんだ。だから、使用するときは相手のことを考えて正しい使い方をしたいね。

(2) の内容は、ある生徒がこの文章をまとめたノートの一部です。IIIIIIに入る二字の漢字をそれぞれ文中よりぬき出しなさい。

タイトル「ネット時代のニュースの読み方」

- ・ SNSの場合、どのような内容でもIで情報発信して世界とつながることができる。
- ・ インターネット上に投稿して拡散されたものによる誹謗中傷は、加害者をIIすることが難しい。
- ・ IIIとは異なった誤報や政治的な目的で意図的に流す偽情報にせは、広くフェイクニュースと言われる。
- ・ 本や新聞などネット以外のものと情報を読み比べ、発信源を調べることが必要だ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ぼく（太二）」が所属するテニス部では、朝練習で荒れたコートで、昼休み中に一年生がブラシで整備する伝統があった。整備をするのは、グーとパーのじゃんけん人数が少ない方が担当することになっていて、たとえ一人になっても手伝わぬのがルールである。

「太二、パーな」

武藤は小声で言うと、そっぽを向いた。いままで一度もなかったことだが、みんなが①なにをしようとしているのかはわかった。やめたほうがいいよ、という言葉が口から出なかったとき、末永が到着した。

「悪い悪い。給食のあと、腹が痛くなつてさ」とおくれた言いわけをする末永を尻目に、「グーパー、じゃん」とみんなが声をだした。

「あっ」

自分だけがグーだとわかり、末永がしゃがみこんだ。うなだれた顔にかかった髪のみすまから、とがらせた口が見えた。

「すげえ偶然だな。おい、末永。手伝ってやりたいのは山々だけど、I よけいなことをしたら先輩たちに怒られるからよ」

武藤は早口で言うと、さあ行こうぜというように右腕をふつた。ぼくは残つて末永と一緒にブラシをかけようかとおもつたが、久保に肩をたたかれて、みんなにまざつて小走りで校舎にもどつた。

たまたま末永がおくれたのに②かこつけて、武藤がワナをしかけたのだ。もしも末永と同時に到着していたら、ぼくもグーをだしていたかもしれない。ぎりぎりセーフと安堵するのと同時に、末永がキャプテンの中田さんか顧問の浅井先生にこの

ことを訴えたいへんだと不安がよぎつた。

中田さんはふだんはおだやかだが、一度怒ると簡単には相手を許さなかった。夏休みの練習で、数人の二年生が日かげでサボつていたときには、自分も一緒にやるからと二年生全員で二百回素振りをした。あらかじめ注意されていたのに、末永ひとりハメたことがばれたら、どんな罰を与えられるかわからぬ③い。

③い。こんなことなら武藤の言いなりになるんじゃないかと、ぼくは後悔していた。でも、聞こえなかったふりをしてグーをだしていたとしても、自分だけいい子になりやがつてと、みんなの反感を買つていただろう。

久保が武藤についたのも、ぼくにはショックだった。久保は小学一年生からの友だちで、超がつくほどまじめなやつだ。そのぶんかけひきがへたで、肝心なところで相手に裏をつかれる。グーパーじゃんけんでもよく負けて、三回に二回はコート整備をしていた。だから、というわけでもないが、ぼくは久保ならこういうときは絶対にとめるだろうとおもつていた。

武藤と末永はブレイスタイルがよく似ていた。二人とも百七十五センチをこえる長身で、威力のある※サーブ&ボレーを武器にしている。ツポにはまると手がつけられないが、※ベースラインでの打ちあいをやや苦手にして、自分の※イージーミスから崩れることが多いところまでそっくりだった。

ただし、武藤が練習熱心なのに対して、末永はすぐに手をぬこうとする。筋トレのときに、末永がまじめにやらなかったせいで、※スクワットや腕立て伏せの回数を増やされたことも一度や二度ではなかった。だから、武藤が中心になってハメたのはたしかに行きすぎだが、末永にまったく非がないわけではなかった。

朝練では、一年生対二年生の対抗戦をする。※シングルマッチで一ゲームを取ったほうの勝ち。四面のコートに分かれて、合計二十四試合をして、白星の多い学年はそのままコートで練習をつづける。負けた学年は球拾いと声だしにまわる。

力試しにはもってこいだ、二年生との実力差は大きくて、これまで一年生が勝ち越したことはなかった。武藤や末永でも三回に一回勝てるかどうかで、久保は一度も勝つたことがない。ぼくは勝率五割をキープしていたが、団体戦に出場するレギュラークラスには歯が立たなかった。ただし、一度だけ中田さんから金星をあげたことがある。ベースラインでの打ちあいに持ちこんで、ねばりにねばって長い※ラリーをものにした。誰が相手であれ、きのうからのモヤモヤを吹き払うためにも、ぼくはどうしても勝たなかった。

ところが、やる気とは裏腹に、ぼくは一ポイントも取れずに負けてしまった。武藤や末永もサーブがまるで決まらず、※ダブルフォルトを連発して自滅。久保も、ほかの一年生たちも、手も足も出ないまま二年生にうち負かされて、これまでにない早さで勝負がついた。

「どうした一年。だらしがねえぞ」

キャプテンの中田さんに命じられて、ぼくたちはグラウンドを走らされた。いつも先頭をきっているので、みんなの姿を見ずに走るのはなれていたが、今日だけは武藤や末永や久保がどんな顔でついてきているのか、気になってしかたがなかった。

誰もが、きのう末永をハメたことを* しているのだ。足を止めて、一年生全員で話しあいをして、昼休みのコート整備を当番制にかえてもらうようにキャプテンに頼もうと言いたかったが、おもしろくないまま、ぼくはグラウンドを走りつづけた。

た。

「よし、ラスト一周。ダッシュでまわってこい」
中田さんの声を合図に全力疾走となり、ぼくは最後まで先頭を守った。

「ボールはかたづけしておいたからな。昼休みのコート整備はちやんとやれよ」

八時二十分を過ぎていたので、ネットのむこうは登校する生徒たちでいっぱいだった。武藤に、まちがっても今日はやるなよと⑥釘を刺しておきたかったが、息が切れて、とても口をきくどころではなかった。

ラケットを持って四階まで階段をのぼりながら、ぼくは武藤と話さなくてよかったとおもった。ぼくが武藤を呼びとめていたら、ほかの一年生はぼくたちがなにを話しているのかと、気になってしかたがなかったにちがいない。武藤ではなく、久保か末永を呼びとめていても④同じ不安が広がっていたはずだ。冷静に考えれば、きのうのことは一度きりの悪だくみとしておわらせるしかないわけだが、疑いだせばきりがなく、事実だった。

もしかすると、みんなは今日も末永をハメようとしていて、自分だけがそれを知らされていないのかもしれない。もしかすると、きのうのしかえしに、末永がなにかしかけようとしているのかもしれない。もしかすると、二、三人の仲の良い者どうしでもうしあわせて、たとえ負けてもひとりにはならないように安全策をこうじているのかもしれない。

ウラでうちあわせ可能な手口がつき頭にかかび、これはおもっている以上に厄介だと、ぼくは頭を悩ませた。

やはりキャプテンの中田さんに助けてもらうしかない。そうおもったが、それをおもいとどまったのは、きのうから今日にかけて、一番きついおもいをしてるのは末永だと気づいたか

からだ。末永以外の一年生部員二十三人は、自分が加担した悪だくみのツケとして不安におちいつているにすぎない。それに対して末永は、今日もまたハメられるかもしれないという恐れをかかえながら朝練に出てきたのだ。最終的に中田さんに頼むとしても、まずはみんなで末永にあやまり、そのうえで相談するのが筋だろう。

そう結論したのは、三時間目のおわりぎわだった。おかげで授業はまるで頭にはいつていなかったが、ぼくはようやく自分のすべきことがわかった気がした。そこでチャイムが鳴り、トイレに行こうと廊下に出ると、武藤が顔をうつむかせてこちに歩いてくる。

「よお」

「よお、よお」

武藤はおどろき、気弱げな笑顔をうかべた。そんな姿は見たことがなかったもので、もしかすると自分から顧問の浅井先生かキャプテンの中田さんにうちあげたのではないかと、ぼくはおもった。たっぷり怒られるだろうが、それで㉔ケリがつくならかまわなかった。

それなら、昼休みには浅井先生か中田さんがテニスコートに来るはずだ。

給食の時間がおわり、ぼくはテニスコートにむかった。しかし集まったのは一年生だけだった。ぼくは落胆すると同時に㉕自分の甘さに腹が立った。

いつものように二十四人で輪をつくつたが、誰の顔も緊張で青ざめている。末永にいたっては、歯をくいしばりすぎて、こめかみとあごがびくびく動いていた。いまさらながら、ぼくは末永に悪いことをしたと反省した。

しかしこんな状況で、きのうはハメて悪かったと末永にあやまつたら、どんな展開になるかわからない。武藤をはじめと

するみんなからは、㉖よけいなことを言いやがってとうらまれて、末永だつて怒りのやり場にこまるだろう。

だから、一番いいのは、このままふつうにグーパーじゃんけんをすることだった。うまく分かれてくれればいいが、偶然、グーパーがひとりになる可能性だつてある。ハメるつもりがないのに、末永がまたひとりになってしまったら、事態はこじれて收拾がつかなくなる。

みんなは青ざめた顔のまま、じゃんけんをしようとしていた。どうか、グーパーとパーが均等に分かれてほしい。

こぶしを顔の横に持つてきたとき、ぼくの頭に父の姿がうかんだ。一緒にテニススクールに通つていたころ、父は試合で会心のショットを決めると、応援しているぼくたちにむかつてポーズをとつた。ぼくや母も、同じポーズで父にこたえた。

「グーパー、じゃん」

かけ声にあわせて手をふりおろしたぼくはチョコキをだしていた。本当はVサインのつもりだったが、この状況ではどうしたつてチョコキにしか見えない。ぼく以外はパーが十五人でグーパーが八人。末永はパーで、武藤と久保はグーパーをだしていた。

ぼくが顔をあげると、むかいにいた久保と目があつた。

「太二、わかつたよ。おれもチョコキにするわ」

㉗久保はそう言つてグーパーからチョコキにかえると、とがらせた口から息を吐いた。

「なあ、武藤。グーパーはもうやめよう」

久保に言われて、武藤はくちびるを隠すように口をむすび、すばやくうなずいた。そして、武藤は握つていたこぶしから人差し指と中指を伸ばすと、ぼくにむかつてその手を突きだした。

武藤からのVサインをうけて、ぼくは末永にVサインを送つた。末永は自分の手のひらを見つめながらパーをチョコキにかえて、輪のなかにさしだした。

「明日からのコート整備をどうするかは、放課後の練習のあとで決めよう。時間もないし、今日はチョコキがブラシをかけるよ」

そう言って、ぼくが道具小屋にはいると、何人かの足音がつづいた。ふりかえると、久保と武藤と末永のあとにも四人がついてきて、ぼくは八本あるブラシを一本ずつ手わたした。

コート整備をするあいだ、誰も口をきかなかった。ぼくの横には久保がいて、ブラシとブラシが離れないように歩幅をあわせて歩いていると、きのうからのわだかまりが消えていく気がした。

となりのコートでは武藤と末永が並び、長身の二人は太股でブラシを引いていく。コートの端までくると、内側の武藤が歩幅を狭くしてきれいな弧を描き、直線にもどれば二人ともがまた太股になってブラシを引いていく。

きつと、ぼくたちはこれまでよりも強くなるだろう。チーム全体としても、もつともつと強くなれるはずだ。

(佐川光晴 『四本のラケット』)

※(文中のことばの意味)

サーブ&ボレー … テニスのプレースタイルの一つ。

ベースライン … テニスコートが一番後ろの線。

イーजीミス … 単純な失敗。

スクワット … トレーニング方法の一つ。

シングルマッチ … 一人対一人の戦い。

ラリー … ボールを連続して打ち合うこと。

ダブルフォールト … テニスの失点の一つ。

問1

~~~~~線①②③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① かこつけて

ア 話題をそらせて

イ 無理に理由づけて

ウ 謝るふりをして

エ 我慢しかねて

② 釘を刺して

ア 問題点を指てきして

イ 痛いところをついて

ウ 効果的な助言をして

エ はつきりと確認して

③ ケリがつく

ア 相手のことを攻撃する

イ 問題が解決する

ウ 言われたことに反対する

エ 有効な手を思いつく

問2 ———線①「なにをしようとしているのか」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 末永だけにブラシ整備をさせること。
- イ 末永を待たずにブラシ整備をすること。
- ウ みんなでブラシ整備をさぼろうとすること。
- エ 武藤と太二だけブラシ整備をしないこと。

問3 ———線②「ワナをしかけた」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分とプレースタイルの似た末永の存在が気に入らなかつたから。
- イ この日の集合にも遅れてきて、さらに言い訳したことに腹が立ったから。
- ウ 注意されていたことをすると、どんな罰が与えられるか興味があったから。
- エ 末永の態度や行動で、周りに迷惑めいわくがかかったことが何度もあったから。

問4 ———線③「こんなこと」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア テニス部の一年生がそのまま分れつしてしまうのではないかと、危機感をもつこと。
- イ 武藤の言いなりにならなかつたらどうなるのかと、不安な気持ちになること。
- ウ 顧問の先生やキャプテンに知られたらどうなるのかと、あれこれ思いなやむこと。
- エ 明日も同じことをしてしまうのではないかと、グーパーじゃんけんをこわがること。

問5 \*にあてはまることばとして、最もふさわしいものを文中から二字でぬき出しなさい。

問6 ———線④「同じ不安」とありますが、どのような不安ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」たちが、今日の昼休みも何かしようたくらんでいるのではないかという不安。
- イ 「ぼく」と武藤が、他の部員には内緒なかくしよで昨日のことを先生に話すのではないかという不安。
- ウ 「ぼく」と末永が、今日は武藤をハメようとして話し合っているのではないかという不安。
- エ 「ぼく」たちが、他の一年生の知らないところで昼休みの整備をするのではないかという不安。

問7 〓線Ⅰ・Ⅱ「よけいなこと」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア Ⅰは一人負けした末永をはげまして応援おうえんすること、Ⅱは末永をハメた事実を打ち明けて謝罪すること。
- イ Ⅰは一人負けした末永をはげまして応援すること、Ⅱは末永に謝罪しようとみんなの許可を得ること。
- ウ Ⅰは一人負けした末永を手伝って整備をすること、Ⅱは末永をハメた事実を打ち明けて謝罪すること。
- エ Ⅰは一人負けした末永を手伝って整備をすること、Ⅱは末永に謝罪しようとみんなの許可を得ること。

問8 〓線⑤「自分の甘あまさ」とありますが、どのような「甘さ」ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言われるがままにパーを出したように、善悪の判断ができず周りに流されやすいという性格の甘さ。
- イ 末永の件の決着を武藤に期待したように、自分は何も行動しなくてすむのではないかという考えの甘さ。
- ウ グーパーじゃんけんただ一人チョコキを出したように、その場の空気が読めないという行動の甘さ。
- エ キャプテンに相談したり先生に助けを求めたりしたように、自分では何も決められないという判断の甘さ。

問9 〓線⑥「久保はそう言ってグーからチョコキにかえる」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」との関係が悪くなったので、今日でじゃんけんを終わりにしたかったから。
- イ 幼なじみの「ぼく」が困っている様子を見て、末永よりも助けたいと思ったから。
- ウ 朝練習の後で「ぼく」と話し合って、一緒にチョコキを出そうと打ち合わせていたから。
- エ 「ぼく」と目が合ったことで、グーパーじゃんけんをやめようと決心したから。

問10 この文章の表現について説明したものとして、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア テニス用語を並べること、いっしょう「ぼく」たちが練習に懸命けんめいに打ちこんでいることを強く印象づけている。
- イ 顔の細部の様子が描かれた部分に、「ぼく」以外の登場人物の心情が表現されている。
- ウ (中略)の前後で一日の時間経過が見られるとともに、「ぼく」以外の一年生の表情や態度にも変化があった。
- エ 「もしかすると」を繰り返すことで、「ぼく」が仲間を疑って不安になっていることを強調している。

三 次の四字熟語の□に共通して入る漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- ① □気投合      一□専心
- ② 一日□秋      □変万化<sup>ばんか</sup>
- ③ 心□一転      臨□応変
- ④ 大□小異      付和雷<sup>らい</sup>□
- ⑤ □画□賛      □業<sup>ごう</sup>□得

四 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 返事にコ<sup>マ</sup>まる。
- ② ドクソウ<sup>ウ</sup>的な発想が評価される。
- ③ あこがれのハイユウ<sup>ウ</sup>に会う。
- ④ 飛行機の出発が一時間ノ<sup>ビ</sup>びた。
- ⑤ 日本のケイザイ<sup>イ</sup>を活性化する。
- ⑥ 株主<sup>シ</sup>総会に出席する。
- ⑦ 至急<sup>シ</sup>、折り返しのお電話をください。
- ⑧ 父の会社は在宅<sup>シ</sup>勤務を推進している。
- ⑨ 税金の使い方に非難<sup>シ</sup>の声が上がる。
- ⑩ 野菜を市場に納品<sup>シ</sup>する。

これで問題は終わりです。